

町政 一般質問を問う！



一般質問とは、議員が町政全般に関して、執行機関（町長や行政委員会）にその執行の状況や将来の方針、住民生活に密接に係わる事項等について質問をすることをいいます。

清水町議会では1人の質問時間を答弁も含めて90分以内としています。



6月定例会では、5人の議員が10項目にわたり一般質問を行いました。

※1 議員最大3項目まで掲載、質問と答弁は要約し掲載しています。

一般質問の全文はホームページでご覧いただけます。（6月定例会の内容は9月末に掲載予定です）



只野 敏彦 議員 9ページ

- 1 地域医療を支えるための手立ては
- 2 住宅系補助金を増額する考えは



山本 奈央 議員 10ページ

- 1 安心して暮らし続けるための切れ目のない支援体制の考え方は



鈴木 孝寿 議員 11ページ

- 1 公共施設の将来構想と施設集約の考えは
- 2 人口減少時代における本町の将来戦略は



中河 つる子 議員 12ページ

- 1 行政のデジタル化の開始に伴い、町民の個人情報は守れるのか



川上 均 議員 13ページ

- 1 合同墓アンケート調査の今後のスケジュールを問う
- 2 町職員の定年退職者の再任用及び65歳以降の再雇用の考えを問う
- 3 新しくりんセンター建設工事における負担金の見通しを問う
- 4 会計年度任用職員活用の考えを問う

各議員のページにある「QRコード」を読み込むと、それぞれ一般質問のやり取り（YouTube 映像）をご覧になれます。



只野 敏彦 議員

地域医療を支えるための手立ては

町長 医療機関のニーズを把握しながら地域医療の充実に繋がる支援を研究していく

問

最近の病院経営は赤字の病院が過半数以上と言われている。

昨年の厚生文教常任委員会の所管事務調査で清水赤十字病院に伺った際、町から1億円の補助を受けているが、経営は苦しいとのことであった。その後、函館赤十字病院閉院の検討のニュースや浦河赤十字病院が浦河町に4億円の財政支援を要請したというニュースがあった。このような状況から、今からでも手だてを考えるべきではないか。

また、町内の他の病院

の医師からも話を聞いたところ、病院経営状況は苦しいという話であった。以上のことから次の点について伺う。

(1) 赤十字病院以外の町内の医療機関に対して各種補助金を交付しているが、さらにそれぞれの医療機関に応じた補助金を出す考えはないか。
(2) 医師や看護師の教育、研修派遣をして医療のレベルアップを図る取り組みに補助金を出してはいいかがか。

町長

(1) 今後も各医療機関

との意見交換を継続しながら地域医療の維持に必要な支援について検討するとともに、既存制度の見直しや充実にについても研究していく。

(2) 補助金の考え方については、医師や看護師の確保も含め、医療機関のニーズを把握しながら地域医療の充実に繋がる支援策を研究していく。

住宅系補助金を増額する考えは

町長

経済情勢や住宅着工件数などの動向を慎重に見極めながら検討していく

問

昨今、ナフサシヨックや物価高騰で建築資材が上がり、家を建てるのが難しくなってきた。そうなる清水町の建設事業者の経営も厳しくなってくる。地元の建設事業者を守るためにも、新築やリフォームの補助金をさらに増額すべきと考えるがいかがか。

町長

ナフサシヨックに伴う原材料費の上昇により、新築・リフォーム着工件数の減少や地元の建設事業者の経営に多大な影響を与えていることについては深く認識している。

しみずマイホーム奨励金においては、定住人口の増加と地域経済の活性化を図るため、適宜見直しや充実を図ってきた。現行の奨励金制度は、町内事業者を利用して住宅を建設する場合、子育て世代に対しては最高額となる100万円、一般世帯に対しても80万円の補助を交付する一方、町外事業者を利用する場合の補助額はそれぞれ10万円、8万円の留めるなど、町内事業者への発注を促

し、地元事業者の受注機会の確保に繋がるよう設計している。

また、今年度より中古住宅取得後のリフォームについても補助対象とし、より幅広いニーズに応えられる制度としており、さらには親族の近くに転入し住宅を取得する場合には、近居開始世帯として補助金の加算措置を設けている。

今後の補助金のあり方については、世界情勢や国内の経済状況、町内の住宅着工件数などの動向を慎重に見極めながら検討していく。



町内に建築中の新築住宅

只野議員の
一般質問全編

